

令和8年度 まちづくり推進事業（案）

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 01 地域カパワーアップ大作戦 | 11 地域ささえあい推進事業 |
| 02 東区地域コミュニティづくり支援補助金 | 12 東区健康まちづくり推進員支援事業 |
| 03 地域の情報ネットワーク利活用支援事業 | 13 <u>多文化共生のまちづくり</u> |
| 04 あさひばりビング（地域交流スペース）活用支援事業 | 14 Instagramによる地域活性化事業 |
| 05 <u>たくまスクエア（多世代交流スペース）事業</u> | 15 美化活動啓発事業
（ごみステーション管理啓発） |
| 06 <u>文化的処方「商店街の美術室」</u> | 16 若者まちづくりリーダーズ事業 |
| 07 災害に「そなえる」タスク | 17 まちづくりリーダーのたね授業 |
| 08 あさひばみんなの防災フェスタ開催事業 | 18 まちづくり懇話会等開催経費 |
| 09 安全安心のまちづくり事業 | 19 東区地域活性化支援事業 |
| 10 子育て支援ネットワーク活性化支援事業 | |

※青文字下線で示した事業は、令和8年度からの新規事業です。

01 地域力パワーアップ大作戦 (継続_令和8年度(2026年度)で5年目)

【事業目的】

地域団体等と地域貢献したい事業者等をつなげることで地域課題の解決を図るとともにコミュニティを活性化させ、持続する地域づくりを支援する。

【事業概要】

地域団体等と地域貢献したい事業者等をマッチングするためのワークショップを継続して開催。

また、テーマを設定したワークショップも開催し、共通する課題の解決に向けた効率的なマッチングを目指していく。ワークショップは区内の3まちづくりセンター（託麻・秋津・東部）で各2回（例年どおり）開催予定。

【マッチング実績】

令和4年度 9件、令和5年度 30件、令和6年度 24件
令和7年度 36件(1月8日時点)



事例発表会



地域×企業
マッチングワークショップ

【事業効果】

- ・地域と企業等との新たなつながりにより地域コミュニティが拡大する。
- ・人材不足などの地域団体等の課題が解決される。
- ・民間事業者等の柔軟な発想による新たな取組が実現し地域コミュニティが活性化する。

【今後の展開・方針】

地域が抱える様々な課題をもとに、**ターゲットを絞った形での開催や参加したことがない地域側が参加しやすい形での開催**も検討していく。

優良事例を表彰することで、取組者へのインセンティブとしつつ取組を可視化し、継続性・ノウハウの蓄積を図り、さらなる参加意欲の向上をねらう。



【懇話会などの意見】

- ・地域課題解決に向けて企業の人・物資・金銭、それぞれの面で協力を得てはどうか。
- ・企業がもつ知的な面、人的な面での協働が得られることは、地域活性化にとって望ましい。
- ・地域課題解決のひとつの手法として進めていってほしい。

02 東区地域コミュニティづくり支援事業 (継続_令和8年度(2026年度)で14年目)

【事業目的】

自主自立のまちづくりを推進するために、地域団体が主体的に取り組む地域のコミュニティづくりを支援する。

【事業概要】

地域が実施するコミュニティづくりに関する取組について、5～30万円を限度に補助金を交付する。
令和7年度申請件数は20件。



過去の補助金を活用した地域活動事例
イベント開催や、公民館でのeスポーツを活用した交流事業など、多岐にわたり活用されている。

【事業効果】

地域の課題を解決するために、地域自ら事業を企画立案し、実践することによって自主自立のまちづくりの実現に繋げることができる。

【今後の展開・方針】

多くの団体に補助金制度を活用してもらい、地域のコミュニティづくりを活性化させるために、過去の補助金の活用事例の紹介など、制度の周知を継続して行っていく。

あわせて、他に利用可能な補助制度等の情報収集・発信を行ったり、新たなまちづくりの取組みに積極的な地域の活動の支援強化を行う。

【懇話会などの意見】

・地域が主体的に自ら企画立案した事業を、行政側が積極的に支援していくことが必要。地域活性化のためにも継続してもらいたい。

・地域活動に対しどんな支援があるのかわからないので、まずは知ってもらうことが重要。

03 地域の情報ネットワーク利活用支援事業 (継続_令和8年度(2026年度)で6年目)

【事業目的】

地域団体等でICTを活用し、構成員間における協議、連絡、情報共有の円滑化・効率化を図っていただくことで、新たな人材の掘り起こしや、自治会等の役員の負担軽減を図る。

【事業概要】

動画編集講座の開催

スマートフォンを活用し、地域の魅力を15秒動画で発信する初心者でも気軽に学べる動画編集講座を開催し、ICT活用による地域情報発信力の向上を図る。講座終了後は「東区リー
ル祭り(仮称)」へ参加し、成果とする。

「ICT活用Book」の利活用

ICTを活用した地域団体の活動事例の紹介や、より具体的な地域活動へのICT活用方法(LINEを使った回覧板、グーグルアンケートを使ったイベント参加者集計など)を「ICT活用Book」として提案し、ICTを取り入れた地域活動をイメージしてもらう。要望に応じて地域で集合型研修を行う。

【事業効果】

- ・地域活動にICTが取り入れられることで、地域活動の負担軽減や、新たなコミュニティづくりの手法が生まれる。
- ・ICT活用を得意とする若い世代の人材の掘り起こしが期待できる。

【今後の展開・方針】

地域活動における効率化・負担軽減・担い手不足の一助となる適当なICT技術の導入を迅速なタイミングで行う。**地域が自ら魅力を発信できる技術を身につけること**で、地域の情報発信力の向上へ繋げる。

【懇話会などの意見】

- ・地域では、新たな取組みを創出しにくい。「こういう事ができるのでやってみませんか」というような仕組みにすると、多くの団体が取組みやすくなる。
- ・地域活動に対しどんな支援があるのかわからないので、まずは知ってもらうことが重要。



自治会長研修において、ICTを活用した地域活動をされている取組みを紹介

04 あさひばリビング活動支援事業 (継続_令和8年度(2026年度)で8年目)

【事業目的】

高齢者から若い世代まで多様な地域住民が利用しているというまちづくりセンターの特性とロビーのスペースを有効活用することで、多世代間の新たなコミュニティの派生を促す。

【事業概要】

あさひばリビング（秋津まちづくりセンターのロビーにある地域交流スペース）で、地域にお住いの特技をお持ちの名人さんが「市民先生」となり、様々なテーマで年間6回程度「あさひばリビングワークショップ」を開催する。

【令和7年度】

- ・ 4月25日 文書作成入門講座
- ・ 5月15日 梅しごとワークショップ
- ・ 5月29日 争族にならない相続～空き家を相続したら！？～
- ・ 6月26日 新茶の美味しい淹れ方
- ・ 8月 3日 色と遊ぶ心がほどけるアート体験
- ・ 8月15日 こどもたちへのおかねのおはなし
- ・ 8月23日 親子で楽しむ塗り絵時間
- ・ 9月28日 熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）
- ・ 11月30日 世界の扉を開けてみよう
- ・ 12月19日 ミニ門松づくり



【事業効果】

多様な利用者同士が対話することで世代を超えた新たな繋がりが生まれるとともに、地域情報等が共有され地域課題の解決につながる事が期待できる。また、こどもの安全な居場所としての役割も果たすことから地域全体でこどもたちを見守ることにつながる。

【今後の展開・方針】

- ・ ワークショップを行う中で、参加者からまちづくりのアイデアや意見を聴取し、事業内容の充実を図っていく。
- ・ 多世代や障がいのある方も参加することができる内容を検討する。
- ・ **地域力パワーアップ大作戦の参加企業等と連携**し、企業が持っている専門性や資源を提供してもらい、住民と企業との新たな交流を創出する。
- ・ 参加者同士のコミュニティの派生を促すため、**同じ参加者によるワークショップを複数回開催**するなど連続する企画を展開する。

【懇話会などの意見】

- ・ 地域の高齢者等を「市民先生」として活用。
- ・ まちセンにフリースペースをつくる。
- ・ 「人と人とのつながり」や「世代間交流」が重要。
- ・ 世代間で学び合うなど、お互いに支え合っていくことが重要。
- ・ 世代を超えて、また障がいのある方も一緒に利用できる場を増やしていくことは、孤立や孤独問題の解消につながる。

05 【新規】たくまスクエア活動支援事業

R6、R7年度は公民館班と連携し、主催講座開催経費で対応

【事業目的】

世代や目的を越えて、来所した市民の交流を促進し、**地域における新たなつながりや活動の創出**を図る。また、地域の多様な層が気軽に立ち寄れる場を継続的に提供することで、**まちづくりセンターの認知向上と地域コミュニティの活性化**を目指す。

【事業概要】

たくまスクエア（託麻まちづくりセンターロビーにある多世代交流スペース）で、**地域の企業等を講師として迎え**、様々なテーマで年間12回程度、**講話や体験会を開催**する。

（参考）R7年度開催状況

- 7/25 「世界のカプトムシとクワガタムシ」
- 8/21 「キッズ美容」
- 8/30 「eスポーツ体験」
- 9/3 「スマホ講座」（ナイストライ活用）
- 9/11 「スマホ講座」（ナイストライ活用）
- 11/11 「音楽レクリエーション」
- 12/20 「初めてのポスターづくり」
- 1月 「（仮）姿勢矯正施術体験」
- 2月 「（仮）外国人の日本文化体験」
- 3月 「未定」



【事業効果】

- 当施設が地域住民にとって身近で利用しやすい場所となり、初めて来館する市民に施設の存在や機能を認知してもらうことで、今後の**継続的な利用機会の創出**につながる。
- 多様な利用者がたくまスクエアを通じて対話・交流することで、人とのつながりが生まれ、**世代間交流の拠点として機能**する。



新たなコミュニティの派生や地域活動の促進
地域全体の活力向上への寄与

【今後の展開・方針】

- 事業を実施する中で、参加者から意見やニーズを聴取し、事業内容の充実を図るとともに、**多世代や障がいのある方も参加できる内容を継続的に検討**していく。
- 企業とのリレーションを強化することで、地域力パワーアップ大作戦などの取組と連携し、**企業同士の協働による地域貢献の促進**にもつなげていく。

【懇話会などの意見】

- ・まちセンにフリースペースをつくる。
- ・「人と人とのつながり」や「世代間交流」が重要。
- ・世代間で学び合うなど、お互いに支え合っていくことが重要。
- ・世代を超えて、また障がいのある方も一緒に利用できる場を増やしていくことは、孤立や孤独問題の解消につながる。

06 【新規】文化的処方「商店街の美術室」

【事業目的】

- 「薬」を処方するように、「アートや文化」を通じて心や社会とのつながりを提供することで、**住民が「望まない孤独や社会的孤立」を乗り越え、またはそれを予防し、健康で幸福に暮らす力を育む**ことを目的とする。

【事業概要】

- 東京藝術大学と連携したアーティストによる健軍商店街の店舗を活用した**文化的処方の実施**。
- アートの力で地域と人をつなぐ新しいアプローチ**として東区で試行的に取り組む。



R7.3 東京藝大 古川実季氏（熊本県立第二高校美術科出身）
文化的処方実施時の様子

【事業効果】

- 地域拠点の中心となる健軍商店街の活性化
- 若い世代が活動に参加しやすい仕組みづくり
- ボランティア団体の活動の場の提供
- 2025年問題の対策として孤独、孤立化の予防
- こどもの居場所づくり
- 芸術家や芸術家をめざす人の活動の場の提供
- 熊本在住アーティストの活動の場

【今後の展開・方針】

- 令和6年度末に健軍商店街の空き店舗を使用し実施したところ、参加者から「楽しかった」との声があったため、引き続き小規模で実施しながら**企業や団体等への展開**を行っていく。ターゲットは高齢者や子育てサークル等とする。まちづくりセンターロビーの活用も検討する。

【懇話会などの意見】

- アートを通じた地域交流は教育・子育て・福祉の面でも有効であり非常に良い。
- 商店街のアーケードは雨天でも利用でき、アート活動に適している。
- 一人親家庭などへの教育的支援にもつながる可能性がある。
- 熊本には美術系高校等が多く、アーティストとの連携が進めやすい環境なのも良い。
- 成功事例もあり、商店街としては他のイベントとの融合も視野に入れたい。

07 災害に「そなえる」タスク (継続_令和8年度(2026年度)で15年目)

【事業目的】

- 東区内の各コミュニティごとの災害への意識・対応力を上げることで、区全体の災害対応力向上と、熊本地震を風化させないまちづくりを目指すもの。
- 町内・校区・各種団体などをターゲットに、それぞれのコミュニティで取り組む防災活動へ、3種の区役所タスクとして地域の防災力アップを応援し、災害へ備えていただく。

【事業概要】

タスク 「『そなえる』防災講座」**年中受付中**

- 「講話をしてほしい!」、「イベントができないか?」、「こども向けに何か取組ができないか?」など町内会・老人会・育成クラブからお問い合わせいただいています。
- 体験、グッズ作成、組織づくりのお手伝い、防災士や気象予報士の講師派遣など、多彩なメニューで様々なご要望に応じ、災害への「そなえ」の形づくりを支援します。

【実績】R6(2024): 全16件/延507名
R7(2025): 全 9件/延140名(R7(2025)9月末時点)

タスク 「地区防災計画策定支援」

- 住民同士で地区(校区)の課題・対策を考え、活動体制・校区ルール・今後の取組方針などを盛り込む「地区防災計画」の策定を支援します。
- 校区のニーズに応じた「簡易版」対応も検討します。
- 策定のため、ワークショップ、専門家のアドバイス・分析、計画書・マップを作成します。

【実績】



【懇話会などの意見】

- 各地域ごとに(町内)若い世代、支援が必要な方などを把握し、災害の際に協力出来る体制づくり。
- 防災活動にたずさわっている人たちの高齢化、若い世代の成り手確保が必要。

【事業効果】

- 防災について、身近になる！
関心が高まる！
「そなえ」になる！
新しい知識が得られる！
意識を高めるきっかけになる！
住民共通の価値観が生まれる！
- コミュニケーションが図れる！
- 共助の体制が生まれる！
- 地域の絆も深まる！

タスク 「東区ぼうさい運動会」

- 大学と連携して開催します。
- 幅広い年齢層の方々を対象に参加いただき、楽しい競技を通じて、防災について学んでもらいます。



～coming soon 託麻南校区～

08 あさひばみんなの防災フェスタ開催経費 (継続_令和8年度(2026年度)で10年目)

【事業目的】

地域住民等に防災に関する知識を楽しみながら学んでもらい、地域の災害対応力のさらなる向上を目指す。

【事業概要】

あさひば地域(秋津・桜木・桜木東・若葉校区)は平成28年熊本地震で甚大な被害を受けるとともに、複数の河川が隣接しており、大雨や台風時には浸水する可能性もあることから防災フェスタを開催する。様々な体験型ブースを設置し、こどもから高齢者まで幅広い年代の参加を促す。同時に、防災講演会や熊本地震の記憶を未来へ紡ぐ写真展を行う。

令和7年8月10日(日) 午前10時～ 約300名参加

【ブース体験】

救急法、VR消火体験、こども用防火服試着、避難所生活の体験、Eスポーツ、防災ポシエツづくり等



【事業効果】

- ・体験型にすることで、災害を自分事として捉えることができる【自助の強化】
- ・校区防災連絡会等と連携することで、各団体の知識や経験の向上につながる【共助の強化】

【今後の展開・方針】

- ・近年の激甚化する気象状況を念頭に、**新たな体験型ブースの設置を検討**する。
- ・地域力パワーアップ大作戦の参加企業にも参加していただき、**事業の横展開**を図る。

【懇話会などの意見】

- ・子育て世代を対象に「こどもの遊びの先に防災」のように、親子で知識・能力の向上を期待。
- ・住民一人ひとりの防災意識を高め、継続させる必要がある。



09 安全安心のまちづくり事業 (継続_令和8年度(2026年度)で13年目)

【事業目的】

小学生～高校生をはじめ区民へ啓発活動を実施し、交通安全・防犯意識の向上、安全安心なまちづくりの実現を目指す。

【事業概要】

(1) 高校生等との協働事業

東区管内の高校演劇部や関係機関と連携し啓発動画の作成を行う。

(2) 区民啓発事業

- ・9月の交通安全週間を目安に、作成した啓発動画を使ってYouTube広告による啓発活動を実施。
- ・広報車での交通安全の呼びかけや防犯パトロールを実施。
- ・警察・交通指導員・防犯協会等との連携。

【事業効果】

交通安全・防犯意識の向上により、交通事故や犯罪の発生の減少に繋げる。

【今後の展開・方針】

より多くの区民に交通安全・防犯意識の向上の啓発ができるようホームページ・SNSを活用した啓発活動を行うとともに、特にR8.4より「**交通反則通告制度(青切符)**」導入もあるため、自転車マナーの向上を目指して高校生等へ向けた効果的な啓発を行うために、**地域・年齢・時間を指定したYouTube広告等による啓発活動**を実施する。

【懇話会などの意見】

- ・自転車の高校生が右側通行や車の間を縫って走る危険な走行をしている。
- ・高校生の交通意識を改めるため、抜本的な取組が必要ではないか。



熊本星翔高校での啓発活動の様子

運転中ながらスマホ	酒気帯び運転およびほう助
違反者は 6ヶ月以下の懲役又は 10万円以下の罰金	違反者は 3年以下の懲役又は 50万円以下の罰金
交通の急務を 生じた場合は 1年以下の懲役又は 30万円以下の罰金	自転車の提供者は 3年以下の懲役又は 50万円以下の罰金
	酒類の提供者・提供者は 2年以下の懲役又は 30万円以下の罰金

東区役所 総務企画課

R7啓発グッズデザイン(絆創膏)

10 子育て支援ネットワーク活性化事業 (継続_令和8年度(2026年度)で12年目)

【事業目的】

子育て世帯が、安全・安心して子育てができるまちづくりを推進するため、区や校区単位の子育て支援ネットワーク活動や地域の主体的な子育て支援活動への支援を行う。

【事業概要】

- ・校区子育て支援ネットワーク活動の支援
- ・東区子育て支援ネットワーク連絡会、研修会の支援
- ・東区および校区子育て支援ネットワーク活動のSNSを活用した情報発信・東区子育て応援マップの配布
- ・中高生と乳幼児とその保護者との交流会を校区子育て支援ネットワークと協働で実施
- ・子育て世代向けの防災啓発を継続的に実施



東区子育て支援ネットワーク研修会



東区子育て支援ネットワークの活動
(東区子育て応援マップ・動画の作成)

【事業効果】

- ・ネットワークの活性化による子育て支援活動の充実、孤立化の予防・児童虐待防止につながる。
- ・中高生と乳幼児とその保護者、地域役員等の多世代交流を行うことで、命の大切さを学び、地域のつながりづくりに役立つ。
- ・若い世代及び地域全体の防災力向上が期待できる。

【今後の展開・方針】

- ・子育て支援ネットワーク連絡会の開催、活動内容の工夫、効果的な情報発信や啓発を行い、子育て支援ネットワークの活動を図る。
- ・校区子育て支援ネットワーク活動の活性化につながる研修会を東区全体および校区単位で開催する。

【懇話会などの意見】

- ・世代間交流を行い、人を育て受容する、認め合う社会を作る。
- ・東区子育て支援ネットワーク連絡会であつまっぶる(子育て応援マップ)を作成し、子育てサークル・子育て支援センター・児童館の動画を作成。携わる人の顔が見える形になっており、母親が情報をキャッチし参加されている。
- ・災害に備えてネットワークで何ができるのか、メンバーで連携して連絡が取れる体制作りができるとうい。

11 地域ささえあい推進事業 (継続 令和8年度(2026年度)で13年目)

【事業目的】

「東区ささえあいプラン(東区地域包括ケアシステム推進方針)」を実行するため、認知症の人とその家族への正しい理解を深めることにより、区民による支え合いを推進する。

また、自らの健康状態に応じて自分の力を活かし社会生活を送る意識の浸透や医療と介護の連携を推進する。

【事業概要】

- ・認知症サポートリーダー(認とも)養成
- ・若い世代を対象とした啓発の実施
 - ▶認知症VR体験(ジュニア向け)
 - ▶認知症に関する映画の上映会
 - ▶**認知症啓発標語コンテスト**



認知症VR体験(ジュニア向け)



いきいき百歳体操体験会

- ・区民、介護事業所等を対象とした研修会の開催
 - ▶区民向け介護予防研修会
 - ▶転倒予防に関する研修会
 - ▶医療と介護の連携に関する研修会
 - ▶**人生会議セミナー**

【事業効果】

- ・認知症への正しい理解が深まり、地域のボランティア活動が活発になることで共助の意識が浸透し、区民主体の支え合いが促進される。
- ・介護予防と自立意識が高まり、健康寿命の延伸につながる。
- ・在宅医療と介護の連携が図られ、地域包括ケアシステムが構築される。

【今後の展開・方針】

- ・認知症の人とその家族への関わりを深めるため、地域、企業、学校など関係機関と連携し、幅広い世代を対象とした取り組みを実施する。
- ・**認知症や介護予防に関するボランティアの活躍の場を創出する。**
- ・研修会の内容や啓発の方法など、ささえりあや介護事業所などの意見を取り入れ展開していく。

【懇話会などの意見】

- ・みんないつかは高齢者になるので、「自分ごと」として体験できる機会を作ってはどうか。
- ・ボランティアとボランティアを求める人がつながる場をつくる必要があるのではないか。

12 東区健康まちづくり推進員支援事業 (継続 令和8年度(2026年度)で10年目)

【事業目的】

健康を幅広く捉える視点を持ち、地域組織や関係機関と協働して東区の健康まちづくり活動を推進する人材(健康まちづくり推進員)を育成し、活動を支援する。

健康まちづくり

市民との協働による健康づくりをテーマとしたまちづくり

【事業概要】

- ・健康まちづくり推進員養成講座の開催
- ・健康まちづくり推進員協議会の活動支援
(定例会・スキルアップ研修・推進員同士の交流・地域における健康づくり活動等)
- ・健康まちづくり推進員協議会で、県立大学と協働で啓発媒体(東区健康増進かるた)を作成し、地域での啓発活動を行う。
- ・若い世代からの生活習慣病予防(高血圧予防・糖尿病予防・骨粗鬆症予防)の啓発
- ・健康まちづくり推進員協議会活動のSNSを活用した情報発信



健康まちづくり推進員養成講座



熊本県立大学生と東区健康増進かるた作成について意見交換

【事業効果】

- ・東区の健康まちづくり活動を推進する新たな人材が確保できる。
- ・東区の健康まちづくり活動の活性化につながり、東区住民の健康意識が醸成される。

【今後の展開・方針】

本事業の取組を今後も継続し、健康まちづくり推進員の活動の広がりを通して、東区の健康まちづくり活動を推進していく。東区健康増進かるたの完成に向けて検討を重ね、令和9年度実用化を目指す。

【懇話会などの意見】

- ・ボランティアの周知、まずは知ってもらうことが必要
- ・ボランティアとボランティアを必要とする方がつながる場をつくるのが大事
- ・仕事で東区に来ている人たちに企業市民として地域活動に参加してもらえるとよい
- ・健康増進かるたが出来上がったならInstagramで紹介してほしい



東区民まつりに健康づくり啓発ブースを出展



13 【新規】多文化共生のまちづくり事業

【事業目的】

- 半導体関連企業の熊本進出をはじめ、増加する外国人住民と地域住民の異文化理解を深めることを目的とする。
- また、地域住民との交流イベントを通じて、外国人住民が地域活動へ関心を持ち、積極的に参加するきっかけを創出する。

【事業概要】

- 公民館講座を活用した日本の伝統文化紹介イベントの実施及び、地域住民と在住外国人との交流促進イベントの展開を二本柱として事業を企画する。併せて、熊本の郷土料理づくりを地域住民と一緒に楽しむ企画も検討する。
- 開催場所：公民館、地域コミュニティセンター等。
- 外国人住民が熊本市の生活に必要な情報を入手できるよう、多言語パンフレットを配布。

【事業効果】

- イベントを通じ、地域住民と外国人住民が信頼関係を築ききっかけをつくり、共に協力し合える環境を醸成する。
- 日本の文化や生活習慣の理解を深め、地域での円滑な生活に貢献。
- 外国人住民が地域課題解決の一員として積極的に関わる可能性を高める。
- 交流を通じて公民館講座生の学びを還元する場を提供する。

【今後の展開・方針】

- 地域の高校生と留学生との共同ワークショップ等、新しい地域交流の企画を検討。
- 子育てサークルや高齢者サロン等、地域交流の場を拡大。
- 各イベントの成果を基に、新たな活動内容や交流方法を調整。

【懇話会などの意見】

- 外国人などマイノリティーの人たちの考え方に配慮した多文化共生のまちづくりが必要

【R7.7月実施の多文化共生講座アンケートの意見】

- よかったです。日本語を勉強できるイベントに参加したい。
- 楽しかったです。Thank you!
- 和食を食べるイベントや着物に興味がある。

【イベント概要】

開催日：7月27日（日）13:00～15:00

場所：東部公民館、内容：和裁見学とお手玉づくり、

参加者：在住外国人 合計11名

（台湾5名、中国3名、アメリカ1名、ガーナ1名、イラン1名）



14 Instagramによる地域活性化事業 (継続_令和8年度(2026年度)で3年目)

【事業目的】

東区公式Instagramを活用し、特に10～30代半ばの若い世代へ東区の魅力を発信することで東区への愛着や郷土愛を育み、まちづくりへの関心を高める。

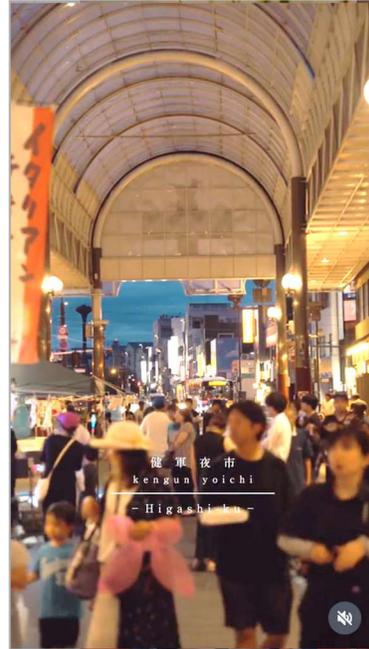
【事業概要】

「人、食、風景・文化資源」をテーマに、東区の魅力を写真やショート動画で作成し、東区公式Instagram等に投稿し発信する。

東区の魅力に関する情報は、地域担当職員をはじめ、各課が地域に出向く際や、外勤時などに収集するほか、委託業者にて時期に応じた情報を収集する。

【事業効果】

Instagramの活用により若い世代のまちづくりへの関心が高まることで地域活動への参加を促し、地域の活性化につながる。



健軍夜市の様子

【今後の展開・方針】

東区公式Instagramのフォロワー数増加に継続して取り組む（将来の目標値7,000人）。

魅力的な投稿の継続はフォロワーの定着だけでなく、地域の方々の誇りへつながり、活動意欲向上につながっているため、クオリティを維持することを重視する。

地域の魅力を15秒動画で発信する「東区リール祭り（仮称）」の開催。

【懇話会などの意見】

- ・若い世代に周知するためにSNSやインスタ、TIKTOKなどで話題づくりもあっていいのではないか
- ・若い世代に東区の魅力を！
- ・健軍や地域をよくしたい若者はいる どう取り込むか
- ・インスタグラム・フェイスブック・HPの活用
- ・若い人に向けては若い人が発信(SNSの発信について)
- ・東区の知られていない文化・魅力を発信し、郷土愛をはぐくむことが重要。
- ・郷土愛をはぐくむことで地域に愛着がわき、まちづくりに関心をもってもらえる。
- ・東区にある自然、歴史、文化など強みを活かしたまちづくりをしてもらいたい。
- ・東区には、託麻三山以外に自然の宝庫と言える江津湖がある。この山と湖の両方を活かして、魅力向上策を講じてほしい。
- ・自治会についての魅力など若者世代は知らないし、わからない。

15 美化活動啓発事業 (継続_令和8年度(2026年度)で5年目)

【事業目的】

次世代を担う地域の児童やその保護者に対し、地域で抱えるごみ問題について考えてもらう機会を設け、問題を正しく理解し、現状を改善する必要があることを強く意識してもらう。
「ごみが分別されず出されている」、「ごみステーション（ST）が清潔に保たれていない」といった地域が抱えるごみ問題を区民に周知し、その解消に向けた取組の啓発を図る。

【事業概要】

- ・学校に協力を依頼し、地域で抱えるごみ問題の解消に向けたポスター作品を募集する（東区「まちキラ」コンクール）。
- ・広く周知するため入賞作品をまちづくりセンターなどに巡回展示するとともに、最優秀賞を受賞した作品をベースとした啓発ポスターを制作し地域に配布する。

東区「まちキラ」コンクール応募者数

開催回	応募者数	前年比
第1回（R4年度）	34名	—
第2回（R5年度）	167名	133名
第3回（R6年度）	233名	66名
第4回（R7年度）	210名	23名

ST美化啓発ポスター



【事業効果】

作品制作に取り組んだ児童やその保護者が、STの適正管理に関する問題について考えることで、地域の抱えるごみ問題に積極的に取り組むことにつながる。
STや公共施設に展示されたポスター作品を見た地域の住民が、地域のごみ問題について認識し、ごみの分別やSTの適正管理への意識が高まる。

【今後の展開・方針】

本コンクールへの認知度が高まり、応募者数が順調に増加し、ST美化啓発ポスターを利用した地域からも概ね好意的な意見が出ていることから、当面は本コンクールを開催し、地域の抱えるごみ問題を解消できるよう引き続き取り組みたい。
また、まちの美化活動推進のため、**ごみ拾いの様子をSNSで発信したり、くまもとアプリの活用を検討**する。

【懇話会などの意見】

- ・拾ったごみを用いたアート作品展や、ごみ拾いグランプリ（ごみ集めレース）など、児童が楽しめるイベントを企画すべきではないか。
- ・若い世帯は仕事の都合等により、地域の清掃活動等への参加が少ない状況であるが、みんなでSTをきれいにする取組ができたらいい。 など

16 若者まちづくりリーダーズ事業 (継続_令和8年度(2026年度)で3年目)

【事業目的】

「地域を知る」「地域のために自分ができることを考える」といった体験を通じて、郷土愛を深めてもらうことを目的とする。

高校生ならではの視点を活かして事業を企画・実施することで、まちづくりの成功体験とし、将来、地域を担う人材となるきっかけとする。

【事業概要】

高校生が地域課題を学び、企画から実践までを行うまちづくり事業

参加者：東区に在住または通学する高校生

人数：10名程度（クールごとに募集）

時期：R8.6月～R9.2月の間に2クール

内容：1クールあたりワークショップ3回

趣旨説明 手法の検討 実践・振り返り



【事業効果】

- ・高校生が社会人になった時、地域活動を特別なことではなく、当たり前のライフワークとして意識付けることができる。
- ・地域のためにできることを、自ら考え、同世代同士力を合わせて成し遂げる楽しさを知ってもらう。
- ・高校生が頑張っている姿を地域に見せることで、30～50代の親世代にも地域活動への意識付けになる。
- ・高校生がまちづくりに関わることで、SNSの活用や新しい文化的ニーズなど大人世代が見落としがちな発想を地域にもたらし、地域側にも今後の地域活動に対する新たな視点や活力を与えることができる。

【今後の展開・方針】

- ・**事業に関わる年齢層を広げ**、高校生のみならず、小学生から大学生までの幅広い若者世代に、事業へ関わってもらう。
- ・**事業実施の場を拡大**する。

【懇話会などの意見】

- ・子どもたちが考えながら、体験するということは非常に重要。
- ・今の高校生等が将来地元に戻ってきた時「ここを守りたい」という気持ちをもってもらうには、今楽しい経験をしてもらう必要がある。

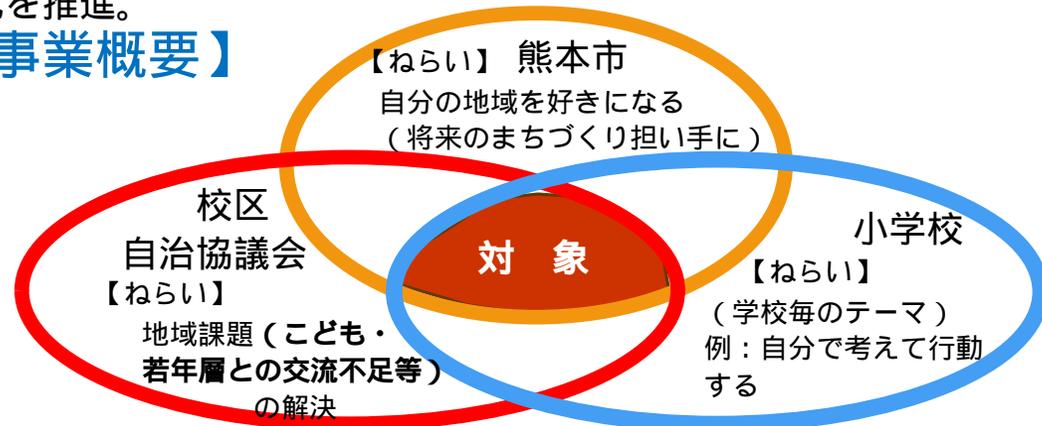
17 まちづくりリーダーのたね授業 (継続_令和8年度(2026年度)で2年目)

【事業目的】

こどもが地域の大人とともに地域課題（こども・保護者との交流不足等）の解決に取り組む場をつくり継続することで、こどもの地域に対する愛着を育み、将来の「まちづくり衝動」の原体験（たね）となり、主体的な地域づくりへの参画（リーダー等）へと繋げる。

また、活動にこどもの保護者や若年層が参加することで、地域の活性化を推進。

【事業概要】



託麻6校区からモデル校を選定。以下のスキームで実施・検証を行い、次年度の活動につなげていく。(順次校区を拡大)

地域の課題に関するワークショップ（地域の大人達も参加）を小学校6年生の授業で行い活動案を作成（全12時限程度：6～7月開始予定）。

活動実施に向けてボランティア募集（小中学生、保護者、PTA、あいぼーと等：11月頃募集予定）

熊本県立大学との連携など大学生との協働も図る。
活動実施(12月～3月) 結果報告、周知

【見込まれる効果】

- ・こども、保護者、学生がまちづくり（自治会活動）に興味関心を持つ。
（自分の地域を好きになる）
- ・多角的な視点でまちづくりが可能となる。
- ・将来のまちづくりの担い手（リーダー）に。
- ・教育委員会との連携強化

【今後の展開・方針】

R8年度も託麻北校区での取組みを継続しながら、**他校区での展開**を図る。

【懇話会などの意見】

- ・地域の担い手不足が課題（R6まちづくり懇話会）
- ・小学校高学年や中高生と協働するまちづくりが必要
（R6年度第2回懇話会）
- ・PTA休止に伴う世代間交流の不足（託麻北校区自治協議会）

【ワークショップの様子（R7託麻北小）】



18 まちづくり懇話会等開催経費 (継続_令和8年度(2026年度)で14年目)

【事業目的】

東区の特性を活かしたまちづくりを推進するため、東区で様々な分野で活躍する方々からの意見を事業に取り入れる。

また、区長が様々な区民の方々と直接対話し、その意見を区役所等の業務に取り入れ、事業の改善を図る。

【事業概要】

まちづくり懇話会の開催様々な分野で活躍されている方から、年3回程度懇話会を開催する。

東区まちづくりカフェ（区長による区民との対話の場）開催区民の「 したい」「 すればいいのに」などの声を聞き、「あなたならどうする？」というように区長との対話形式で区民の課題解決に向けて一緒に考える。参加者が思っていることを発言できるよう堅苦しくない雰囲気での開催を目指す。



R7.8月 食生活改善推進協議会役員会委員とのまちづくりカフェの様子

【事業効果】

地域活動に意欲的な方や学識経験者など専門分野に精通した方々の意見や提案をいただくことで東区の特性をいかしたまちづくり事業に取り組むことができる。

区長が様々な区民の方々と対話することでより多くのニーズを把握することができるとともに、区民が区長と対話することで区民のまちづくりへの関心が高まり、地域活動への関心につながる。

【今後の展開・方針】

令和7年度、懇話会委員数を12名に見直したことにより、活発な意見交換が実現し、まちづくり推進事業に対して有益なご意見を多数いただいた。令和8年度もこの方針を継続し東区の特性を活かしたまちづくりを推進するため、専門家や様々な方々との意見交換の場を引き続き設けていく。

【懇話会などの意見】

様々な地域課題を抱えている現状において、行政と地域が連携して課題の解決に向けた取り組みを行い、自主自立のまちづくりを推進していく必要があり、委員をはじめ、区民の意見を踏まえながら区のまちづくりに取り組んでほしい。

19 東区地域活性化支援事業 (継続_令和8年度(2026年度)で10年目)

【事業目的】

時勢等により発生した地域の課題に対して、迅速に対応し、解決を図る。

【事業概要】

課題に対して迅速に、また臨機応変に対応し、地域の活性化に寄与する事業を立案する。

令和7年度の実績(別紙有り)

(1) 【熊本地震から10年】東区ドキュメンタリー

「揺れの記憶」

震源地に最も近く被害が甚大だった東区であるが、市民アンケートでは、記憶や教訓が年々薄れてきているとの結果になっている。そこで、区内地域の方々を語り部として、当時の活動や体験、講じた対策などのつらかった記憶も呼び起こしていただき、それをドキュメンタリーとして記録化する。

(2) 【文化的処方】商店街の美術室

「薬」を処方するように「文化」を処方することによって、一人ひとりが「望まない孤独や社会的孤立」を乗り越え、または「予防」することで、住民が幸福に暮らす力を育むことを目的とし、アート力で地域と人をつなぐ新しいアプローチとして東区で試行的に取り組む。

【事業効果】

- ・突発的に発生した課題等に対し、迅速な解決を図ることができる。
- ・地域の課題解決へ向け、時勢に沿った研修会や講演などを行うことで、地域が主体となって課題に取り組む「自主自立のまちづくり」を推進する。

【今後の展開・方針】

引き続き地域において突発的に発生した課題に対し、迅速かつ柔軟に対応する事業等を立案し、地域の活性化を図る。
東区長出席等の行事にて、要望があれば**区長賞の授与**を行う。

【懇話会などの意見】

- ・懇話会や自治会アンケートなどの意見をもとに取り組みられているようで喜ばしい。
- ・自治会加入促進事業やゴミ出しルール啓発ポスターなどの取組は、良い方向へ進んでいると思う。
- ・自治会加入促進については、活動をわかりやすくし、地域共生社会の必要性を住民に周知していただくための取組は大事。